

【12月・0歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢/男児/活発) (1歳8カ月/4月生まれ)	Bさん(高月齢/女児/活発) (1歳7カ月/5月生まれ)	Cさん(高月齢/男児/静か) (1歳6カ月/6月生まれ)	Dさん(高月齢/女児/静か) (1歳5カ月/7月生まれ)
子どもの姿	1. 入眠はスムーズだが寝起きは機嫌が悪く、泣いて起きることが多かった。 2. 友だちが登園すると、近くまで歩いて行って本児なりに声をかけて挨拶したり、同じコーナーで遊ぶ友だちに「はい」と玩具を渡す姿が見られた。 3. 下痢と嘔吐があり欠席が続いたが、登園し始め、食欲が少しずつ戻ってきた。	1. 衣服やエプロンの着脱を手伝われることを嫌がり、自分でやろうとするが、うまくできずに怒っていた。 2. クレヨンを使ってなぐり描きを楽しんだ。 3. オムツが濡れていないタイミングで便器に座ると、排尿できた。		
ねらい	1. 安定した生活リズムの中で、安心して過ごす 2. 友だちと関わる楽しさを味わう	1. 簡単な身の回りのことに挑戦し、自分でできた喜びを味わう 2. 様々な道具や素材を使った表現を楽しむ		
内容	1. 保育者に見守られながら一定時間眠り、心地よく目覚める。 2. 保育者の仲立ちのもと、友だちと玩具を通じたやり取りを楽しむ。	1. 保育者に見守られながら、ズボンや靴下、エプロンの着脱をする。 2. クレヨンを使ったお絵描きや、シール貼りを楽しむ。		
環境構成 配慮 援助	1. 午睡の途中で目が覚めたときに、本児の視界に保育者が入ることで安心できるように、側に付いて見守る。目覚めたときは「おはよう」と穏やかに声をかけ、まだ眠そうな様子があれば再入眠を促したり、泣いてしまうときは抱っこをしながら思いを受け止め、お茶を飲んだり、別室での遊びに誘うなど、個別に対応する。 2. 友だちと同じ空間で落ち着いて遊べるように、玩具の数や遊びのスペースを十分に確保する。本児自ら友だちに関わる姿を見守るとともに、互いの思いが伝わるように、「〇さんが来たね、うれしいね」「〇さんも、Aさんと同じ玩具で遊びたいんだね」と丁寧に言葉を添えて仲立ちする。	1. 日々の時間配分に余裕を持たせ、時間がかかっても自分で行う姿を尊重し、見守ることができるようにする。難しそうなときは、「ここをぎゅっと引っ張るよ」「このトンネルに足を入れるよ」とわかりやすく伝えたり、さりげなく手を添えて援助し、自分でできた喜びを味わえるようにする。 2. クレヨンやシールは使いやすい長さや大きさのものを準備し、使う前には「口に入れない」という約束をわかりやすく伝える。描きやすいように紙に手を添えるよう促し、クレヨンで自由に描いたりシールを貼ったりはがしたりする様子を見守りながら、本児なりの表現やつづやきを受け止める。		
食事	(幼児食) ・保育者に食べさせてもらいたがるときは、甘えを受け止めて介助しつつ、本児の様子に合わせて徐々に介助を減らし、自分で食べられたときは大いにその姿を認め、自信につなげる。 ・口に物を入れ過ぎてしまうことがあるため、落ち着いて食べられるように「カミカミしようね」と伝えて咀嚼を促したり、一口量をスプーンですくって見せる。	(幼児食) ・食事中にふざけて足をバタバタと動かすことがあるため、「危ないからやめようね」と伝えてすぐに止めさせ、食事に意識が戻るように「次に食べたいのはどれかな？」と声をかける。 ・スプーンや手づかみで食べ進める様子を見守りながら、器に手を添えて食べることを伝えていく。		
家庭の連携	3. 感染症が流行する時期なので、咳や鼻水、便の状態などをこまめに伝え合い、体調の変化を見逃さないようにする。 ・睡眠や食事など、子育ての悩みを丁寧に聞き取り、保護者の日々の大変さや心配に寄り添いながら、必要に応じて助言をする。	3. トイレで排尿できたことを喜ぶ本児の姿を伝え、家庭と協力して成功体験を重ねていくことができるようにする。 ・感染症の拡大を防ぐため、日々の体調の変化に注意し、こまめに様子を伝え合うとともに、園やクラスで流行している感染症の主な症状や出席停止期間などの情報を、わかりやすく周知する。		
評価・反省	1. 目覚めたときに保育者が側にいると安心するよう、トントンや抱っこで再入眠できる日もあった。室内の温度や湿度を適切に保ち、心地よく眠ることができる環境を整えながら、様子を見守っていく。 2. 子ども同士のやり取りを見守るだけでなく、保育者もさりげなく遊びに入り、さらに関わりが生まれるようにした。玩具をめぐってトラブルになる場面もあるので、ケガを防ぎながら仲立ちし、思いが通じる喜びを感じられるように対応する。	1. 本児の意欲を大切に、手や口を出し過ぎないように気をつけながら側で見守った。本児なりに保育者に助けを求めたときはすぐに対応し、安心して挑戦できるように関わっていきたい。 2. シールが指から離れずに苦戦する姿も見られたが、両手を使いながら試行錯誤し、紙に貼って楽しんでた。描く楽しさ、貼る楽しさに共感しながら、表現活動への意欲を育てる。		

無料版：2名分
↓
有料版の
"おまもりプラス"
は12名分が
閲覧&DL可能！

子どもの姿の1, 2は『内容/ねらい/環境構成・配慮・援助』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記：ウェブサイトに当社方針を記載しております。